

## 自分の学習方法にメスを

通知票は担任が作成しますが、皆さんの手元に届くまでに、多くの職員が関わっています。教科ごとの評価には教科担任が関わっていますし、記載事項の確認を、学年主任や学年所属のない職員でやっています。そして、最終的に私のもとにやってきて、私が印を押して完成です。

昨日は全校生徒全員の通知票に押印しました。判を押すだけなら時間はかかりませんが、完成した通知票に目を通し、一人一人の生徒の評価や所見、そして活躍の記録などを確かめていると、結構時間がかかります。

私が最も関心を寄せて確かめているのが、「各教科の評価と評定」の「関心・意欲・態度」の欄です。1から5までの数字（評定）よりも関心を寄せています。なぜなら、学習のスタートラインはここからです。

「B」は「普通」という単純な解釈は間違っています。正確には「おおむね満足できる」です。学習の成果が上がっており、力もついているという意味です。「A」は確かにその上ですが、これは数字（評定）に関係なく素晴らしいことだと、私は考えています。

「A」の多くは、評定が「5」や「4」の生徒に付いている場合が多いですね。「好きこそもの上手なれ」という言葉があるように、やはり姿勢と結果には大きな関係があるでしょうからね。しかし、評定は「3」ですが、「関心・意欲・態度」が「A」になっている生徒もちらほらといます。

このような、学習に向かう姿勢はよいのになかなか満足できる力がつかない生徒に、私は注目しています。

そういう生徒には、学習の方法にメスを入れてほしいと思います。そして、一日も早く自分に合う「力がつく学習方法」をみつけることです。そうすれば、評定も上がる可能性は十分あります。

そのために、毎日の生活や学習を変えることです。同じ練習を繰り返し返していても、強敵には勝てないのと同じです。改革しなければ、新しい自分は生み出せません。

「SPT」を大切にしてください。自分一人で考えることに限界があるなら、教科担任に相談してください。勉強法の質問、それも大歓迎ですよ。何かを変えないことには、事態が変わる可能性は低いままですからね。「C」がついてしまった人は「B」や「A」になるまで待っていてはいけませんよ。それらに変えるのはあなたなのですから。

（十月九日 記）

